

青梅市梅の里再生計画 再生・復興プログラム【平成28年度～令和2年度】 取組状況一覧

(平成25年度計画当初は、28年度中に防除区域が解除されて、市内全域で再植栽が始められる前提で計画されていたため、実際の取組みとの乖離が生じている)

分野	施策	取組状況
農業	4-1 梅樹植栽・梅生産の支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 梅樹植栽に対する農家の相談・連絡体制の充実 援農ボランティアによる農家への支援 早期成園化技術等による栽培の促進 梅生産農業に関する支援制度の検討・実施 梅生産の拡大および作業の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 樹苗養成振興会に委託し、再植栽用の梅苗木の育成を行い、農地への再植栽を行った。(平成28年度～令和2年度) 3,428本(枯損を含む)を植栽した。 梅農家支援のための援農ボランティア育成講座を平成29年度までに5回開催し、ボランティアの育成と梅園の肥培管理の理解を図った。その後、市内全ての農家に対する援農ボランティア制度を確立した。(令和2年度ボランティア19名、受入農家9軒の登録) 早期成園化技術の導入に向け、東京都の委託事業として和田町でジョイント栽培が行われた。(平成28年度～29年度)280本(枯損44本を含む)を植栽。
	4-2 梅生産農業の担い手づくり <ul style="list-style-type: none"> 後継者・新規就農希望者の研修や勉強会等の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> 再植栽した梅樹から十分な量の梅が生産できるようになった後の梅農家への支援策として、援農ボランティア育成講座を開催するとともに、援農ボランティア制度を確立した。
	4-3 ウイルス等病害虫の対策強化と産地育成 <ul style="list-style-type: none"> 病害虫防除に関する継続的な対策実施 苗木等の植栽時における安全管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 強化対策地区内で、春・秋年2回の消毒、年3回の感染状況調査を実施した。(平成28年度～令和2年度)延べ166園地で212本の感染樹を確認した。(伐採は都が実施) 再植栽用の樹・苗木は、横浜植物防疫所で検定を行い、感染していないことを確認して再植栽をした。
	5-1 高付加価値梅製品の開発・地産地消型農業の促進 <ul style="list-style-type: none"> 農家の梅加工技術の継承・向上を目的とした研究会の開催 商店や飲食店等と連携した地場産品を活用した食の開発 梅製品の地域ブランド化に向けた認証制度等の推進 6次産業化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地元において、梅樹伐採後の用地を活用し、蕎麦を植え「梅郷そば」の開発を行った。現在は市内の飲食店などで提供されている。
	5-2 梅製品の特産品化・販売体制強化 <ul style="list-style-type: none"> 直売施設や飲食施設等での地場産品の消費拡大 梅製品等の販売体制の見直し・魅力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ウイルスに感染した梅の木を大量に伐採し、梅の生産が減少したことから、強化対策地区に再植栽を行ったが十分な収穫量が得られないため、施策の取組みができなかった。再植栽した梅の苗木が成長し、梅の生産ができるようになった後の課題と考える。
	5-3 観光や都市農村交流を活用した梅生産農業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 都市農村交流事業の推進 地域における梅の体験プログラムの実施 	

青梅市梅の里再生計画 再生・復興プログラム【平成28年度～令和2年度】 取組状況一覧

(平成25年度計画当初は、28年度中に防除区域が解除されて、市内全域で再植栽が始められる前提で計画されていたため、実際の取り組みとの乖離が生じている)

分野	施 策	取 組 状 況
観光・商業	6-1 梅のある美しい郷土景観の再生 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンガーデン整備の推進 ・ 梅園地以外の民有地・市有地への梅樹の植栽 ・ 歩行空間の景観整備等 ・ 居心地のよい飲食施設の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青梅市観光協会が中心となって、オープンガーデンの整備を行った。平成29年度から令和2年度までに寺社を中心に13か所、186本を植栽。(枯損を含む) ・ 地元の要望を受け、東京都と覚書を交わし、神代橋通りおよび町谷橋付近に梅樹81本を街路樹として植栽した。(平成29・30年度) ・ 公園・児童遊園13か所40本、五小・西中の校庭にそれぞれ13本と15本の梅樹の植栽を行った。(平成29年度～令和2年度) ・ 中道梅園に47本、木原梅園に9本、天満公園に1本梅樹を植栽した。(平成28年度から令和2年度) ・ 中道梅園の園路や障がい者用駐車場の整備、トイレの洋式化など施設改修を行い、梅の公園と周辺地域を結ぶ拠点として整備した。(平成30年度～令和元年度)
	6-2 梅の公園の再生・充実化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園エリア整備と公園全体の造園的な演出 ・ 梅の公園の通常管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梅の公園再生地区の測量結果を踏まえ梅樹植栽計画を策定した。これに基づき、平成28年度から令和元年度までに合計1,312本を植栽した。(枯損を含む) ・ 令和元年度の台風被害により園内に仮植していた梅樹の再植栽を行った。(令和2年度) ・ 観梅シーズン以外の利用者拡大に向けて彼岸花の球根40,000球の植栽を行った。(平成30年度・令和元年度) ・ 利用者の安全確保と快適な環境のため、平成28・29年度には老朽化したあずまや、園路、側溝等の補修を行った。平成30年度からは本格的な施設改修として園路の補修、手すり・防護柵・ベンチの設置等を行った。またトイレの洋式化工事も実施した。 ・ 年間を通した公園施設の清掃管理、草刈、雑木林の支障木の伐採剪定を行うとともに、植栽した中低木の剪定を行うなど利用シーズン拡大に向けた管理の充実を図った。
	6-3 吉野梅郷梅まつりの魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉野梅郷梅まつりの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観梅市民まつりやフォトコンテストの実施、まつり開催期間中のボランティアガイドによる案内、オープンガーデンの整備を行い集客を図った。(来場者数：平成29年度27,989人、平成30年度26,629人、令和元年11,107人) また、梅まつり期間中に、新たに「グルメマルシェ」「スイーツフェスタ」などのイベントを開催し、梅まつりの充実を図った。
	7-1 梅の公園以外の花の観光地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 四季の花を活用したまちづくり ・ 新たな集客拠点の整備・活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青梅市観光協会が主体となり、地元自治会の協力を得て、神代橋通りの街路樹ますにビオラを植栽した。 ・ 天満公園に桜、イチヨウ、モミジの植栽を行い、四季を通して楽しめる地域づくりを進めた。

青梅市梅の里再生計画 再生・復興プログラム【平成28年度～令和2年度】 取組状況一覧

(平成25年度計画当初は、28年度中に防除区域が解除されて、市内全域で再植栽が始められる前提で計画されていたため、実際の取り組みとの乖離が生じている)

分野	施 策	取 組 状 況
観 光 ・ 商 業	7-2 周辺観光エリアとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 周遊コースの充実 ・ 観光周遊を図るための利便性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度に作成した「青梅観光ガイド」にて、御岳山、御岳渓谷と吉野梅郷を含む「のんびり、ゆったりハイキングコース」を設定。この内容を青梅市観光協会のホームページで紹介。また地元と連携して「山内新四国88か所巡りガイドツアー」を実施した。(令和元年度) ・ 吉野梅郷梅まつりのリーフレットにウォーキングルートを掲載し、地域周遊のツールとして活用した。JR東日本と連携し、関東圏内の各駅に配布した。(平成28年度から実施) ・ 令和元年度に御嶽駅にレンタサイクル施設「MEGACLE(ミナクル)」のオープンに伴い、おうめ観光プロジェクトにおいて、橋梁から渓谷の紅葉を眺めながら吉野梅郷まで周遊するサイクルコースを作成した。 ・ 令和2年に吉川英治記念館が再オープンしたことから、きもの博物館、櫛かんざし美術館、玉堂美術館の相互連携を目指し協議している。

青梅市梅の里再生計画 再生・復興プログラム【平成28年度～令和2年度】 取組状況一覧

(平成25年度計画当初は、28年度中に防除区域が解除されて、市内全域で再植栽が始められる前提で計画されていたため、実際の取り組みとの乖離が生じている)

分野	施 策	取 組 状 況
総合	<p>8-1 情報発信体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズに応じた様々な媒体での情報発信 ・ 来訪者の要望にきめ細かく対応する情報発信体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ OmeBlue公式フェイスブックにて梅まつり情報を発信。 ・ JR東日本と連携し、JR駅ビジョンで吉野梅郷梅まつりのPR動画の放映を行うとともに、関東管内各駅に梅まつりリーフレットを設置した。 ・ 吉野梅郷観光協会でフェイスブックを立ち上げ、イベント情報や梅の開花情報などの情報提供を行い、PRを行った。 また、青梅市観光協会のホームページのリニューアルを行い、梅の開花情報などのアクセシビリティの向上を図った。 ・ イオンモール日の出などに横断幕を設置した。(平成29年度、30年度) ・ 梅の公園でガイドボランティアを再開。平成29年度から梅の専門家による研修を実施、平成30年度の梅まつり期間中に4日間の案内を実施した。
	<p>8-2 事業推進体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業推進体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梅の里再生計画庁内推進会議の開催(平成28年度4回・平成29年度3回・平成30年度2回・令和元年度2回・令和2年度1回)関係各課との連絡調整を図った。 ・ 梅の里再生・復興推進本部会議の設置と開催 梅の里再生・復興を加速させるため、平成28年度に新たに設置し、「梅の里再生・復興プラン」を毎年度作成することとした。(平成28年度から13回開催) ・ 青梅市梅の里再生計画推進委員会を継続して開催し、協議を行った。 (平成28年度3回・平成29年度3回・平成30年度1回・令和元年度2回・令和2年度2回) ・ ゆめうめちゃんを活用して、梅の里再生・復興事業の周知と募金活動を行った。(平成29年度から) (クリアファイル等の啓発グッズの作成、梅の里再生PR横断幕の作成および設置、庁用車にPR用マグネットシートの貼付) ・ 平成28年に再植栽が始まった機運を盛り上げるため、市内小学校5・6年生から梅の里再生の標語・スローガンを募集し、復興推進本部会議で「咲かせよう！ 僕らの夢と梅の花」を選出し、クリアファイル等に記載して啓発活動を行った。 ・ 「梅の里再生プロジェクト」が地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の認定を国から受けることができたことに伴い、企業からの寄付を募った。 平成29年度1,800,000円、平成30年度4,700,000円、令和元年度1,300,000円、令和2年度1,150,000円 ・ 10万円以上の高額寄付者名を梅の公園に設置した芳名板に掲載した。(平成29年度から) 団体73社、個人23名を掲載(令和元年度時点) ・ 「令和」の考案者とされる中西進先生に梅の公園にある最初に再植栽された6本の梅樹それぞれに、万葉集の言葉から命名していただいた。これに伴い、その説明板と名板(6枚)を梅の公園に設置。(令和2年度)